平成１９年産マンゴー栽培暦（７月出荷型）

月	10			11			12			1			2			3			4			5			6			7			8			9		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育相							花芽分化期						出蕾期			開花期			生理落果									収穫期			夏梢伸長期			秋芽伸長期		
温度管理	２０℃			できるだけ２０℃以下						１０℃						２５～２７℃			３０℃																	
																２０～２２℃			２４℃																	
水管理			控える				断水						灌水50mm			やや少なめ 10日おき5mm			10日おき10mm												十分灌水					
管理作業	・土壌改良材施用 ・摘芯									・加温開始			・混合花の摘葉			・ミツバチの放飼 ・花つり上げ ・施肥（３０％）						・摘果 ・施肥（２０％）			・果実のつり上げ						・剪定 ・施肥（５０％） ・芽かぎ						・誘引
害防除	○かいよう病出蕾期～収穫期を除いて月に1回の防除 ICボルドー66D 500倍									○スリップス類モスピラン水溶剤 2000倍			○灰色かび病ロブラール水和剤 1000倍			○炭そ病ベルクート水和剤 1000倍（安全使用基準収穫75日前まで）												○スリップス類アドマイヤー水和剤 2000倍 ○かいよう病ICボルドー66D 500倍								
備考	花芽確保を図るため、秋芽から発芽する芽を摘心する。 ○肥培管理 年間N量 17kg/10a （収量1.5t/10a） 出蕾期 30％（速効性） 果実肥後 20％（速効性） 収穫大期 50％									加温は総枝数の7割以上が出蕾後、14℃から開始する。 断水後の灌水は総枝数の3割以上が出蕾後、開始する。 ミツバチに影響ある農薬の使用に注意する。			混合花については花芽の発育を促進するため早期に摘葉する。			開花期の温度は最高30℃、最低を20℃厳守する。 灰色かび病対策として灌水を控える。			摘果は2～3cmに達したら1花房あたり3～4個にし、初期肥大を促す。			生理落果終了後、最終的に1花房あたり1個に整理する。			ヤニ果は土壌水分の急激な変化、高温（35℃）で発生を助長する。また、果実生育期の最低温度を24℃で維持することで発生を押さえることができる。			収穫終了後は灌水量を増やし夏梢の発生を促す。 剪定は8月上旬までに終了する。					

農薬使用基準は平成１９年１月４日時点のものです。使用前にラベルをよく読み安全基準を守りましょう。